

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡崎市立新香山中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒 444-2141  
岡崎市桑原町字大沢 20 番地 86

E-mail : sinka@st.oklab.ed.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 161 名 女子 167 名 合計 327 名  
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成 ～環境学習を基盤としたESDの展開～

#### 1 ESDとして育てる能力・態度

##### (1) ESD新香山プラン

本校は、「ESDは概念だが、手立てでもある」としてESDを取り入れた授業改善を行ってきました。

##### ①「何を学ぶか」

ESDの6つの視点で環境学習を見直し、キーワード化（新香山＝shinca）として意識付けました。（以下1年生の概念の例示）

##### ア. 1年「動物たちとの共生社会を考えよう」

S : solidarity（相互性）自分自身や自分の住む地域と自然、社会とのつながりを意識する。

H : highly-diverse（多様性）生き物の立場で環境の変化を実感し、生物の役割や多様性の大切さを実感する。

I : incessancy（有限性）獣害の背景には森の変化があり、このままでは地球が維持できないことを実感する。

N : non-discriminatory（公平性）生き物と人間との共生社会の必要性和折り合うことの難しさを実感する。

C : commitment（責任性）身近な自然の変化は人間の生活が関係しており、その責任を実感する。

A : Act in union（連携性）みんなで話し合い、取り組む必要があることを認識し、意欲を高める。

こうして6つの視点をキーワード化して授業構想の際、意識づけました。



##### ②「どのように学ぶか」

次に環境学習プログラムで設定されている身に付けたい力とESDの7つの能力観点（国立教育政策研究所の最終報告書より）を共有化しました（右図）。さらにこれらの能力観点を探究のスパイラルに合わせて並び替え、設定し直し、授業構想することにしています。

	CATCH	ACTION	REFLECTION
①批判的に思考・判断する力	A 課題識別・設定能力		
②未来像を予測して計画を立てる力	A 課題識別・設定能力		
③多面的・総合的に考える力	A 課題識別・設定能力		
④コミュニケーションを行う力		B コミュニケーション能力	
⑤他者と協力する態度		C 自他の理解能力	E 環境社会設計能力
⑥つながりを尊重する態度		D 活動環境整備能力	F ESD実践力
⑦進んで参加する態度			F ESD実践力

##### ③「どうやって進めるか」

実際の授業では、学習内容に迫るために教師支援が欠かせません。本校では探究学習において教師支援のあり方がESDを意識したものでなくてはならないと考えました。そこで、教師の手立て

をESDとして構想するために国立教育政策研究所の最終報告書において、指導の留意点として明らかになっている以下の「3つのつながり（教材とのつながり、人とのつながり、行動化とのつながり）」を取り入れて、「6つの視点」「7つの能力観点」と合わせた相関表にして指導案に明記するようにしています。

下の相関表は、2年生「未来のエネルギーを考えよう」の相関表です。この授業では

特に「多様性」と「責任性」を意識した教師支援を構想し、批判的に思考する力の育成に主眼をおいています。そして、「これまでの体験をもとに話し合う場の設定」と討論で生徒の意識にゆさぶりをかける目的で「ゆうだい君の手紙を提示すること」を明らかにしています。

## 2 活動の概要

### (1) 岡崎環境学習プログラム

「21世紀は、環境の世紀」といわれるよ

視点	つながり			活動	手だてのキーワード
	教材	人	能力・態度		
S相互性					
H多様性	◎	◎		4, 5	「ゆうだい君の手紙」を提示
I有限性	○				未来志向で原子力発電を考えたとき、安全性が課題であることを押さえる。
N公平性					
C責任性	◎	○	◎	3	自分たちがこれまで行ってきたエコ活動で節電できるかどうか、体験をもとにした話し合いを構成する。
A連携性	○	◎	◎	5	持続可能な社会実現に向けて追究課題を設定する。

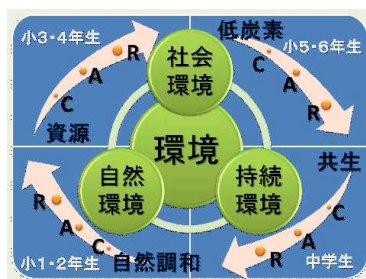
◎ : ESDの視点と能力領域の両方に資した手だて  
 ○ : ESDの視点に資した手だて  
 △ : ESDの能力領域に資した手だて

うに地球の環境に対する危機感や保全の取組は、わが国のみならず、今や世界の潮流となっています。本市においても、そういった背景の中で2010年に「人間と環境のかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動を持って、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成すること」の育成をねらいとした「岡崎環境学習プログラム」が制作されました。本プログラムの特徴は、次の2点です。

□義務教育9年間の学習内容、身に付けたい力に系統性がある。

□総合的な学習の時間、各教科とのクロスカリキュラムとして扱う。

さらに、学ぶべき環境は、自然環境はもとより、社会環境、そして持続可能な社会作りのための環境（ESD）の3つが対象分野とされています。これら3つの環境（学習分野）を視点に、子どもの発達段階を考慮に入れ、教育課程の見直しを図りながら下図の4つの学習領域を定め、年間15時間を基本とするプログラムを作成しました。本プログラムは、すでに市内の各学校で独自に進められている地域カリキュラムを基盤として、現場の創意工夫を加え、地域や子どもの実態に合わせて学習展開の工夫がされるように柔軟な対応を求めています。また、単元終了後には、パフォーマンステストを設定し、子どもたちの知識、思考力、行動・意志決定を取り出すよう設定されています。本校では、この岡崎環境学習プログラムを地域の特徴、生徒の実態をとらえつつ独自の教材開発を行い、主体的な学びになるよう実践を重ねていきました。その中で、生徒の学びの視点や教材の内容が持続可能な社会のあり方に向けていくこととなります。こうして本校は、ESDを授業構想の中核に据えて実践を重ねることにしました。





### 3 実践事例

#### (1) 1年生の学習

1年生は、獣害をテーマにして生き物と人間の共生を考える学習を行っています。新香山の校区では、近年サルやイノシシが人の居住区域で田畑を荒らしたり、学校で保護活動を進めているササユリの花根を食べたりする「獣害」が起きています。この問題をバイオリージョンマップ(右図)の製作活動から焦点化し、共生社会のあり方を考える学習を展開しました。生徒たちは、「外来生物は駆除すべきか」「希少生物は保護すべきか」という課題で討論を行い、かかわり合いの中で価値観を深めています。話し合いを構想する中で教師は、ESDの視点や能力・態度、留意点を相関表にして人や動物の立場を明らかにしたり、未来の地域をイメージする手立てを講じたりしました。このように、生徒が身近な自然の恩恵を実感できるようにして「感受性」を磨くことができるように探究学習を構想しています。1年生が毎年行っていた森の下草刈り(右写真)も生態系の維持という動機が生まれ、生徒の意欲が増しました。





## (2) 2・3年生の学習

2・3年生は、自らエコ活動を進め、持続可能な社会を考える授業を行っています。その中で、生徒の問題意識を高めるために「環境家計簿」を取り上げ、一人一人の排出する二酸化炭素の量を測定する活動を取り入れたり、「原子力発電所の再稼働」や「節電目標」のニュースを提示し、生徒の問題意識を高めるための討論会を設けたりして、「自分事」として追究に取り組めるよう構想しています。教師の手立てもよりダイナミックになり、2年生では、東北地方の中学校とテレビ会議を行い、エネルギー消費のあり方について意見交換をし、3年生では持続可能な社会づくりのテーマの中で、フェアトレードや国際理解に学びが拡大し、未来社会の主体者として生き方を高める取組を行うようになっていきました。3年生のある生徒は、「持続可能な社会作りのために、今私たちができること」の単元で、未来社会を生きる人々との平等感や公平感を意識して、現在のエネルギーのあり方を考える意見(右図)を主張することができました。

## 4 成果と課題

### (1) 積み上げられている力

実践後、実施したアンケートの分析を行いました。(右図)「あなたは、環境問題の解決のために行動したいか」の問いには、愛知県教育センター実施の数値と比較したところ、本校の生徒の行動化の意欲が高いことが伺えました。さらに、「将来地球の環境はよくなっていると思うか」の問いには「思わない」と答える生徒が同センターの数値よりもかなり高くなっていることが分かります。このことから、環境学習を通して、生徒たちは将来に対して危機感や切実感を抱きつつ、環境問題を自分事としてとらえ、自らの行動意欲を高めることができていると考えられます。こうした成果からも、岡崎市環境学習プログラムにある系統的で主体的な学びを重ね、持続可能な社会をイメージし、自分自身の社会とのかかわりや生き方を具体的に実践できるよう学習を展開していくことが大切であると考えます。

### (2) おわりに

研究を通して、環境学習そしてESDのキーワードは「探究」であることが実感できます。さらに、学びが深まるにつれて「世代を超えた倫理観」を学ぶ道徳的な授業の必要性が高まってきました。また、私たちは、この実践を通して学びのキーワードを「つながり」としました。さらに今後は、生徒の行動化のキーワードを「つづける」としています。未来志向の環境学習での視点は、まだ見ぬ世代ですが、生徒の生活と行動は「すぐ先の未来」です。生徒の日頃の行動こそESDの検証場面であると考えています。(例えば、トイレのスリッパをそろえることも一番近い未来の人を意識した行動として校内のトイレのスリッパをそろえ、「フラッグ」をあげようという取組も実施しています。(右写真)岡崎市環境学習プログラムでは、「大切なのは答えを教えるのではなく、考え方を身に付けることである」とされています。私たちもその理念を踏まえ、よりESD的な発想と手法によって、「未来志向の生き方学習」として確立できるよう、今後とも研究を重ねていきたいです。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )